

令和6年産「おいでまい」栽培のしおり

「おいでまい」の品種特性にあわせた栽培管理を行い、高品質・良食味米生産に努めましょう！
～目標：外観品質1等、タンパク質含有率6.5%以下～

J A香川県中讃営農センター（仲多度用）
香川県中讃農業改良普及センター 監修

生育相	活着時期		茎が増える時期		茎の増加を抑える時期		穂ができる時期		穂が大きくなる時期		穂に実が入る時期					
作業の目安	作業基準	田植日 (播種日)	間断灌水開始 (田植15日後頃)	田干し開始	田干し終了 (出穂30日前頃)	穂肥Ⅰ施用 (出穂18日前)	穂肥Ⅱ施用 (出穂10日前)	出穂期	収穫期							
		6月20日 (5月31日播種)	7月5日	7月20日	7月29日	8月10日	8月18日	8月28日	10月9日							
		6月25日 (6月5日播種)	7月10日	7月23日	8月1日	8月13日	8月21日	8月31日	10月11日							
		6月30日 (6月10日播種)	7月15日	7月25日	8月3日	8月15日	8月23日	9月2日	10月14日							
※播種、田植は田植適期マップに基づいて行いましょう。 ※この作業の目安は、農業試験場での生育状態に基づいているので、地域の気象状況によって変動することがあります。																
水管理																
	育苗	基肥	育苗箱防除	田植え	雑草防除	確認防除	田干し開始	田干し終了	確認防除	穂肥Ⅰ (ワンショット以外)	畦畔管理	穂肥Ⅱ	必須防除 (本田1回目) 出穂期防除	必須防除 (本田2回目) 出穂10~20日後防除	落水 (走り水)	乾調製
栽培管理のポイント	<p>健康づくりに努める。(水稲育苗のしおりに準じる。)</p> <p>1株3~4本植えを基準とする。 株間は18~22cmを基準とする。</p> <p>育苗箱処理剤を施用する。(必須防除)</p> <p>基肥および土壌改良資材を施用する。</p> <p>初期除草剤散布後7日間は止水し、湛水を保つ。 (ガス湧きに注意)</p> <p>間断灌水を行い根ぐされの防止に努める。</p> <p>葉いもちに注意し、発生を確認したら早めに防除する。 (特にいもち病常発地)</p> <p>田面の亀裂幅が1cm程度になったら走り水を行う。 小さなヒビ割れができるまでにとどめる。</p> <p>1株茎数30本程度で田干しを開始し、程度は再開する。 出穂30日前頃には田干しを終了し、間断灌水を再開する。</p> <p>※水稲の生育状況を確認して、施用量を加減する。 出穂18日前(幼穂長5mm程度)に穂肥Ⅰを施用する。</p> <p>コブノメイガや紋枯病の発生状況に注意する。</p> <p>再開する。 出穂30日前頃には田干しを終了し、間断灌水を再開する。</p> <p>水剤・粉剤の場合は出穂直前に散布する。 粒剤の場合は出穂20~15日前に散布する。(必須防除)</p> <p>ウンカ類 カメムシ類 紋枯病・穂いもち クサネムは収穫前までに抜き取る。 カメムシ類</p> <p>収穫後は速やかに乾燥に移す。 籾の黄変率85~90%のときに収穫する。 落水後も乾き過ぎる場合は走り水をする。 落水は収穫作業に支障のない限り遅らせる。</p> <p>篩い目1.85mm以上のライスグレーダーで調製する。 仕上がり水分14.5~15.0%とする。</p>															

「おいでまい」の特徴と栽培上の留意点

- 地力の低下は、収量や品質の低下を招くので、稲わら・麦わらは焼却せずにすき込み、併せて土壌改良資材を施用しましょう。
- 分げつが旺盛なため、植付本数が多いと過繁茂となるので、1株当たりの植付本数は3~4本にしましょう。
- 生育初期は葉色がうすめに推移するので、過度の施肥はしないようにしましょう。
- 強い田干し(干しすぎ)は、根を傷めて収量・品質を落とすので、適切な水管理を行いましょう。
- いもち病に弱いので、育苗箱防除、本田防除は必ず実施し、発生が見られたら確認防除を行いましょう。

病害虫防除基準				
【必須防除】育苗防除				
防除時期	対象病害虫	農薬名	使用基準	注意事項
田植日	いもち病、紋枯病、イネミズウムシ、ウンカ類、コブノメイガ	ビルダーフェルテラテスGT粒剤	50g/箱 1回	○老化苗、軟弱徒長苗、露のある場合には葉害の恐れがあるので注意する。 ○本田には直接散布しない。 ○育苗防除は、本田防除との体系処理で使用する。

【必須防除】本田防除					
防除時期	対象病害虫	農薬名	使用基準	注意事項	
1回目	出穂20~15日前	いもち病、紋枯病、カメムシ類、ツマグロヨコバイ	ゴウケツモンスター粒剤	3kg/10a 収穫45日前までに1回	○水深30cm程度まで水をためて均一に散布し、散布後7日間は湛水、かけ流しを行わない。
	出穂前	いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類	ダブルカット/ロダフロアブル スターグル粒剤 スターグル粒剤 スターグル粒剤	1,000倍 総播期まで2回以内 2,000倍 収穫7日前まで3回以内	○殺菌剤・殺虫剤の混合で使用。 ○株元、葉節部に対して散布むらがないよう全体に均一に散布する。
2回目	出穂10~20日後	カメムシ類、ウンカ類	スターグル粒剤 スターグル粒剤 スターグル粒剤	3kg/10a (前期DL) 収穫7日前まで3回以内 250g/10a 収穫7日前まで3回以内	○粉剤を使用する場合は、湛水状態で均一に散布する。 ○スターグルは混合剤を混ぜて、3回までの使用とする。 ○ミミツバチに影響があるので、養蜂がある場合は、飛散しないよう注意する。

【確認防除】				
対象病害虫	農薬名	使用量	使用基準	注意事項
スクミリンゴガイ(シヤホウタニシ)	スクミノン	1~4kg/10a	移植後 (収穫90日前まで) 2回以内	○湛水状態で散布し、散布後7日間は湛水状態にして、落水、かけ流しを行わない。 ○水田以外には絶対に散布しない。 ○雑草が多数発生する場合は、出穂後当日に使用する。
ニカメイチョウ、イネツトムシ、コブノメイガ、アザツツマ類	バダン粒剤4	3~4kg/10a	収穫90日前まで 6回以内	○30cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後7日間は湛水、かけ流しを行わない。
ウンカ類、コブノメイガ、カメムシ類	トレボネW	1,000倍 (100mg/水100ℓ)	収穫14日前まで 3回以内	○株元、葉節部に対して散布むらがないよう均一に散布する。
いもち病	ブラシフロアブル	1,000倍 (100mg/水100ℓ)	収穫7日前まで 2回以内	○粉剤・フロアブルは株全体に均一にかかるとよい。ていねいに散布する。 ○粉剤・フロアブルは周辺作物や環境に十分配慮し、飛散しないよう風が強い時などに散布する。
いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類	ワイロンチ豆つぶ	250g/10a	収穫95日前まで 1回以内	○30cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後7日間は湛水、かけ流しを行わない。
紋枯病	リンパー粒剤	3~4kg/10a	収穫30日前まで 2回以内	○粉剤は株全体に均一にかかるとよい。ていねいに散布する。 ○出穂後まんじり発生がみえ、散布の必要を認めた場合は「バリダシン」を速くとも出穂10日後までに散布する。
	バリダシン液剤5	1,000倍 (100mg/水100ℓ)	収穫14日前まで 5回以内	

雑草防除基準					
区分	使用時期	対象雑草名	除草剤名	使用量・回数	注意事項
初期除草期(2回を選択)	移植直後~9日	水田一年生雑草、マツバ、ホルライ、ウツクワ、ミスガヤツリ、ヒルムシロ、クワグワイ、セリ	ジェインソルフロアブル	500mg/10a 1回 移植後30日までに使用	○散布後3~4日は水深3~5cmを保ち、1週間後は湛水やかけ流しをしない。 ○葉や浮草が発生している水田では、拡散効果が低下し、葉害や効果不良の恐れがあるので使用しない。
			カチボシジャンボ	小包装(1パック)10個 (300g)/10a 移植後30日までに使用	○散布直前から3~4日間は水深5~6cmの湛水を保つ。 ○湛水して鮮葉から小包袋のまま10aあたり10個の割合で均等に投入される。 ○葉や浮草が発生している水田では、拡散が不十分となり、葉害の発生や効果が劣る可能性があるため使用しない。
			ラオウ1キロ粒剤	1kg/10a 1回 移植後30日までに使用	○濃霧が降りた後の散布では効果が劣りますので、発生始めまでに散布する。 ○散布後3~4日間は湛水状態を確保する。 ○田間同時散布機で施用又は湛水して手まきもしくは撒粒機等で均一に散布する。 ○異常高温又は異常低温時は葉害発生リスクがあるため、使用しない。
中期除草期	移植後7日以降	ノビエ、アゼガヤ、キシュウ、スズメヒエ	クリンチャー1キロ粒剤	1kg/10a 2回以内 収穫30日前までに使用	○広葉雑草の多発田では使用を避ける。 ○散布後3~4日間は湛水状態(3~5cm)を確保する。 ○ノビエ3葉期までの使用とする。
	移植後20日以降	ノビエ、キシュウ、スズメヒエ、イナカガ、ヒメ一年生雑草	クリンチャーBMS液剤	1,000mg/10a 2回以内 収穫50日前までに使用	○湛水又は深く湛水した状態で、70~100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 ○湛水状態で散布し、3日間はそれ以上の湛水を入水しない。落水ができない場合はノビエ3葉期までの使用とする。
発生時	移植後20~30日	藍葉一年生雑草、マツバ、ホルライ、オモカ	バコラン粒剤	3~4kg/10a 1回 収穫90日前までに使用	○湛水又は深く湛水して手まき又は撒粒機等で均一に散布する。 ○落水直後処理とし、散布後3日間は入水はしない。
		水田一年生雑草及びマツバ、ホルライ、オモカ	センドショットSジャンボMX	小包装(1パック)20個 (500g)/10a 1回 収穫45日前までに使用	○散布直前から3~4日間は水深5~6cmの湛水を確保する。 ○湛水して鮮葉から小包袋のまま10aあたり20個の割合で均等に投入される。 ○葉や浮草が発生している水田では、拡散が不十分となり、葉害の発生や効果が劣る可能性があるため使用しない。

※1 砂地で葉害がでやすい地域やスクミリンゴガイが多発しているため湛水できない場合は、田植後5日以降に除草剤を使用する。
※2 ジャンボ剤のバックのフィルムは水溶性なので濡れた手で作業したり、踏みで破損することのないよう注意する。
※3 砂質土壌、湛水田、軟弱田、根幅が浅く、浮草が多い、穂刈の遅い水田は使用を避ける。

農業使用の際は、容器に記載された「農業使用基準」を遵守しましょう。農業散布の際は、周辺ほ場や作物へ飛散しないよう注意を払いましょう。

近年農作業中の事故・トラブル等が多発していますので、安全面・周囲の環境に配慮した農作業を心掛けましょう。 2023年11月作成 (仲多度)

「おいでまい」の施肥基準 (側条施肥) 施肥量に注意して高品質・良食味な「おいでまい」を生産しましょう！

ほ場毎の栽培履歴や地力等に応じて施肥量を増減しましょう。

速効性肥料の場合 (kg/10a)						ツーショット肥料の場合 (kg/10a)				ワンショット肥料の場合 (kg/10a)										
肥料名		合計	基肥	穂肥Ⅰ (出穂18日前)	窒素成分	肥料名		合計	基肥	穂肥Ⅰ (出穂18日前)	窒素成分	肥料名		合計	基肥	窒素成分				
硫加磷安402		55	25	20	10	7.7	スーパーブレンドLP40		55	25	30	7.7	おいでまい一発		40	40	7.2			
ユーキ鉄ケイカル成分% (Ca: 34, Si: 23他)	100	○土壌の酸度矯正、地力維持・改善のため、荒起しの時に施用する。					ユーキ鉄ケイカル成分% (Ca: 34, Si: 23他)	100	○土壌の酸度矯正、地力維持・改善のため、荒起しの時に施用する。					ユーキ鉄ケイカル成分% (Ca: 34, Si: 23他)	100	○土壌の酸度矯正、地力維持・改善のため、荒起しの時に施用する。				
苦土一番成分% (Si: 20, Mg: 12他)	40	○基肥、追肥(出穂30~40日前)いずれの施用でも良い。					苦土一番成分% (Si: 20, Mg: 12他)	40	○基肥、追肥(出穂30~40日前)いずれの施用でも良い。					苦土一番成分% (Si: 20, Mg: 12他)	40	○基肥、追肥(出穂30~40日前)いずれの施用でも良い。				
けい酸加里成分% (Si: 34, k: 20他)	40						けい酸加里成分% (Si: 34, k: 20他)	40						けい酸加里成分% (Si: 34, k: 20他)	40					

※側条施肥でない手散布等の場合は、基肥量を2割程度増肥する。 ※側条施肥でない手散布等の場合は、基肥量を2割程度増肥する。 ※側条施肥でない手散布等の場合は、基肥量を1割程度増肥する。 ※穂肥量は天候や地力に応じて加減する。

※水田では、肥料成分溶出後の被膜殻が浮上することがありますので、被覆殻をほ場外へ流出させないように注意して下さい。